

第12回 相原駅東口まちづくり検討会 会議要旨

場所：堺市民センター ホール

日時：2017年2月7日（火曜日） 19時00分～20時30分

出席者：地権者等：19名

町田市：地区街づくり課 平本課長、加藤係長、倉澤主任、秋葉、船岡
建設総務課 日比野係長

道路整備課 荒木係長、北原係長、市川担当係長

コンサルタント：(株)住宅・都市問題研究所 平井、岡田

<次第>

- (1) 開会
- (2) 資料説明
- (3) 質疑・意見交換
- (4) 閉会

◆ 議事

(1) 開会

今回は、前回の検討会で、宿題をいただいた点の検討結果を報告します。そのあと、アクセス路の線形について、警視庁との協議がおおむねまとまりましたので、その結果を報告します。また、道路線形が確定したので面的なまちづくりについても議論しやすくなると思いますので、将来のまちづくりの方向についても、検討いただければと思います。

どうぞよろしくお願いたします。

(2) 資料説明

① 前回の宿題について

★東西連絡路について

東西連絡路を2ケース検討しました。両方とも線路の地下に内法寸法で高さ2.5メートル 幅3.5メートルのコンクリート製の箱を埋め込む形で計画しました。町田街道の土被りを仮に必要な寸法とし、人の通る高さを確保すると、東側の道路から2.25メートル下がったところが連絡路の路盤面になります。このレベル差を階段で繋いでいます。トンネルの長さは21メートルで階段を含めると全長が約54メートルになります。

もう一つのケースは、車いすで通れるスロープにする方法です。5%勾配で必要な踊り場をとっています。この方式だと全長約154メートルと長くなります。

★東西連絡路について

駅舎の自由通路、町田街道、旧町田街道の線路下連絡路の連絡の3つの間隔を凶化しました。今回、検討した連絡路は駅から約165メートル、町田街道から約95メートルの距離にあります。

★ラウンドアバウト交差点について

前回、ラウンドアバウト型の交差点を導入してはというご意見を頂きました。交差点内での車両の接点が少なく済むため、接触事故が少なくなるなどで導入例も出てきており、最近『ラウンドアバウト マニュアル』という本が刊行されています。

このマニュアルに従って駅前交差点での導入を検討してみました。通行する車種や交通量等により、中央島（アイランド）と環道の端部までの距離が決められていて、この交差点では半径 20 メートルが必要になります。この結果、交差点の設置面積が相当大きくなります。また、ラウンドアバウトは、郊外部の見通しのよい交差点での導入例が多く、駅前のような歩行者交通がある程度想定されるような交差点だと歩行者の移動距離が長くなるといわれています。従って、通常の交差点のほうが整備しやすいと思われれます。

★町田街道の側道について

町田街道の側道が一方通行になった場合、相模原市方面へ行き来する距離が長くないかというご指摘を受けたので、図面に整理してみました。図面の中央の交差点から整備するアクセス路を通して町田街道の側道を経由して吉田橋に抜けるルートは約 270 メートル、従来の都道を経由して町田街道の側道を通るルートでは約 220 メートルになります。約 50 メートルの違いで収まっています。

② アクセス路について

前回、町田街道の側道を交互通行できるように、警視庁や東京都と協議を継続するとお話ししましたが、最終的には、側道は一方通行になりました。

相模原市側から駅東口のほうに車で行く場合、側道を通して駅東口に入ることになりますが、駅方向から相模原市側に行く場合は、アクセス路を経由して町田街道の新設交差点を通して側道に入って相模原市側に行く形になります。その場合、相互通行ができた場合よりも約 50 メートル距離は長くなります。歩行者等は側道の歩道を通して行き来ができる形状になっています。

皆様にお配りした資料にアクセス路の線形が描かれています。幅員 12 メートルの道路で前回の資料と、道路の形状は変わっていませんが、線路脇の道路の部分や新設の交差点部分が十字になるなど、少し変更した所があります。

現在、一方通行になっている東西の道路は、幅員が約 4 メートルですので、中心から両側に拡幅する形になり側溝の端から約 4 メートルを、両側それぞれに拡幅します。南北の道路は、ここは都道ですが、現状の幅員が約 5.5 メートルですから、ここも同じように側溝の端部から約 3.25 メートル両側に、それぞれ拡幅する形状になります。

もう一点、新設の交差点についてです。相原駅入口交差点は立体交差化によりなくなります。新たに交差点として現在の郵便局前に信号ができます。前回、ここはT字の交差点になると説明しましたが、関係機関等との協議の中で、行き止まりの道路を加えて十字交差点とし、利便性を高めることになりました。また、境川の河川改修時期に合わせ、相模原市側に橋をかけ、相模原市にも抜けるルートを確認するという将来の構想を検討しています。当面、行き止まりの道路ですが、市民センターの駐車場という形で、部分的に整備し、市民センターの利用に関しても、不便のないようにする予定です。

③ まちづくりの将来方向について

道路が決まったので、それに合わせた土地利用やまちの将来像についての議論が進めやすくなります。

まず、課題を整理しています。赤色の駅前ゾーンは駅の周辺で、市民の日常生活を支える日用品が買える店舗が少ない。駅前広場はあるが、整備されていない。駅前として地区の拠点としての役割を果たせていない。都市基盤が整備されていない。よって、土地の有効活用が図れていない。等が課題になっています。

次に、緑色の駅南ゾーンは道路幅員が狭く、歩道が整備されていない。都市基盤が整備されていない、町田街道立体交差化により、駅南ゾーンと公共施設ゾーンが分断される。などが上げられます。

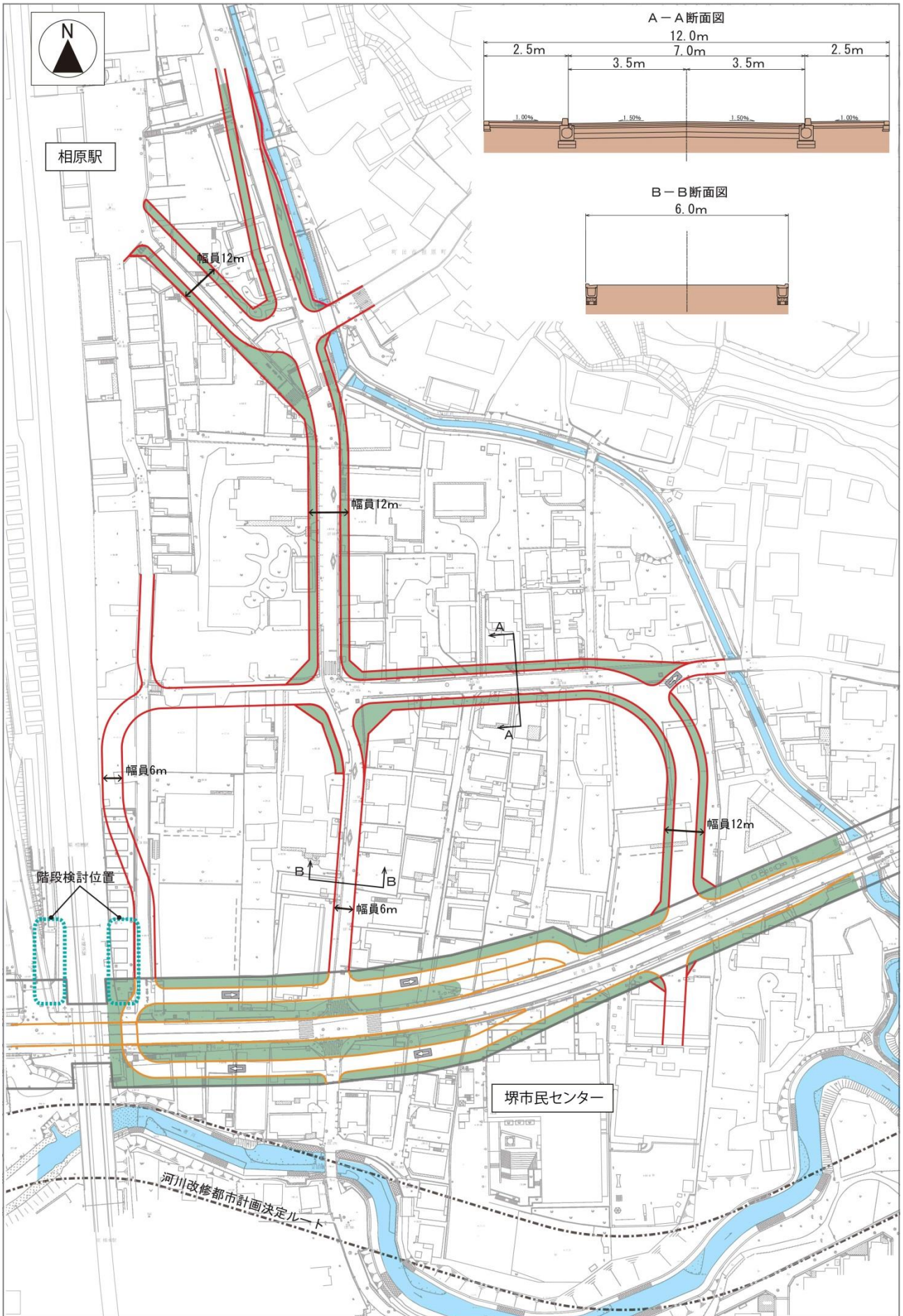
最後は、青色の公共施設ゾーンです。町田街道立体交差化により、相原駅西口、大戸方面から堺市民センターへ直接進入できなくなる。相模原市との間にかかる吉田橋の幅員が狭く、車のすれ違いなど、車の相互通行ができない。などが上げられます。

これらの課題を踏まえ、まちづくりの方向性を示しました。前回までの検討会で話している内容ですが、道路の確定に合わせ、ゾーン区分に応じて改めて方向性を整理しました。駅東口の周辺の赤色・駅前ゾーン、真ん中の緑色・駅南ゾーン、現在、市民センターがある青色・公共施設ゾーンです。市民センターに隣接して保育園と郵便局があるため公共施設ゾーンという位置付けにしています。このように、まちづくりを3つの方向性にさせていただきました。

④ 今後の予定について

2017年度以降は、今は東京都が管理する都道171号線という駅東口に入っていく都道の境界を確定する作業があります。これは東京都の南多摩東部建設事務所が行います。アクセス路のルートが決まりましたので、市は沿道の住民の方と個別に話をする機会を持つことを考えています。今後、皆さんのお宅に伺う際は、大きな図面を持ち、図面上で道路の具体的な距離などを示せるようにしたいと思います。

2018年度からは、道路の路線測量という道路にかかる住宅を個別に測量をさせていただきます。そうすることで、道路区域となる範囲がどこまでかが分かります。合わせて、沿道の地権者の方々の合意を頂ければと思っています。2019年度に入ると、道路のさらなる詳細設計と道路区域の認定があります。道路が認定されると、用地取得が進められることとなります。実際の道路整備は、用地取得などのスケジュールにより変更はありますが、現在は2020年度からとしています。目指すべきスケジュールではありますが、進めるからには早く整備してほしい、というご意見もいただいています。まず、皆さま方にこれから個別にお話をさせていただき、早い段階で整備を進めたいと考えています。道路整備に合わせ、まちのルールづくりについても、皆さんと検討したいと思います。



(3) 質疑・意見交換

<検討会での主なご質問・ご意見>

東口アクセス路について

(質 問) 駅前の交差点周辺と、一方通行につながる部分の歩道が膨らんでいる交差点となっているが、理由があるのか。

(市の答え) 駅前の交差点は、既存の道路と直交する交差点にするため道路を曲げているためです。一方通行との交差部は道路構造令に基づき安全面を考え設計をしています。

(質 問) アクセス路や町田街道の両側に歩道が整備されると思うが、町田市として、周辺の児童たちが使う安全な通学路をどのように考えているか。

(市の答え) 通学路については、相原小学校と堺中学校にヒアリングをしました。現状の通学路は町田街道になっています。しかし、現在の町田街道は、歩道はありますが狭く危険も多いため、駅の自由通路を通り、現在の一方通行の道を通学路として認めていると聞いています。しかし、一方通行路についても、歩道と車道が分離されていないので、先生たちはいつも危険を感じているということでした。特に中学校は、部活動の関係で冬場は暗くなってから帰宅する生徒も多く、一方通行路の辺りは暗く危険を感じるということです。アクセス路が整備されると、歩・車が分離され、安全な通学路が確保できると考えています。

また、町田街道も歩道が整備されることから、整備後は安全な通学路として通ることができると考えます。

町田街道とアクセス路の交差点について

(意 見) 前回の検討会では、町田街道にはT字の交差点しかできず、大戸方面からきて郵便局や保育園に車で来る場合に右折での侵入は危険だと感じていた。堺市民センターへは、アクセス路を通過して一方通行を右折して、町田街道を回って入るという回答であった。

十字路ができると、市民センターへの右折も可能になり利用しやすくなり、郵便局や保育園へもアクセスしやすくなると思う。

(質 問) 十字の交差点から相模原市側への将来的な延伸については相模原市と話をしているということだが、相模原市側は区画整理をやっており、向こう側は住宅の街区道路になっている。そこに、この規模の道路を通すのは無理ではないか。可能性があるのか。それよりは、吉田橋を広げる方が良いのではないか。

(市の答え) 相模原市側の道路は、区画整理で造られた道路で南北に通っているのは、4メートル幅の道路ですが、吉田橋から川沿いの道路は6メートル幅の道路なので、河川改修により用地が少し広がるので、そこに道路を通して十字路から伸びた道路を繋いで町田街道の交差点から相模原市との行き来ができる形にしたいと思っています。

町田街道の側道について

(質 問) 町田街道が整備されることで、相原東口地区は「死に体の過疎街」になる。吉田橋から相模原市側に行く道は死活問題にもなる大切な道、本当に側道の相互通行はできないのか。

(市の答え) 交通の安全管理上等の面から原則として側道は一方通行になります。

(質 問) 町田街道の側道の相互通行ができないのなら、今の駅入口の交差点から駅に向かう道路は、拡幅の必要がなくなると思うが、どうか。

(市の答え) 今の相原駅入口交差点から駅へ向かう道は以前のアンケート等でも車のすれ違いが困難で拡幅の要望を多くいただいております、拡幅したいと考えています。

東西連絡について

(質 問) 東西を繋ぐ「ずい道」は生活利便性や防災上、重要だと思う。アクセス路と一緒に計画を決めるという訳にはいかないのか、それができないのなら、図面に点線を入れて構想線にするという意思表示をしてほしい。

(市の答え) 今は東口のまちづくりの将来像の中で「検討すべき路線」として位置付けています。まずはアクセス路とそれに伴う沿道の土地利用を考えます。その次のステップとして、東西連絡路等をどのようにするか議論に進んでいくと考えています。

まちづくりの将来方向について

(質 問) 交差点にするため郵便局が移転することを初めて聞いた。郵便局はまちづくりの中で金融機関として重要である。東口の望ましい場所に置いてほしい。

(市の答え) まちづくりの方向性を表す絵の中でも、この一帯は公共施設ゾーンに位置付けています。このゾーンの中には、市民センター、こうさぎ保育園、郵便局などが入っています。堺市民センターは、2017年度に設備の改修を計画しています。また、こうさぎ保育園も、建て替えを検討しなければならない時期にきています。こうした施設の更新を検討する中で、郵便局の移転先も考えていくことが出来れば良いと思います。

(質 問) 駅前東口の開発は、やはり栄えることを目指すべきである。今のアクセス路の整備スケジュールでは遅いのではないかと、早く整備すべきだと思う。

(質 問) 過去の検討で、相原駅には7,000 m²の広場、具体的には西口に5,000 m²、東口に2,000 m²が必要という話があった。東京造形大学のバスの発着場などもあるから、そういうものも交えた中で早急に検討していくべきだと思うが可能性あるのか。

(市の答え) 今後のアクセス路の整備スケジュールについては、合意形成等の手続きもあり、時間はかかりますが、一日も早く整備ができるように進めていきたいと考えています。

東口広場については、JRとも話し合いをしています。まだ明確な方向は定まっていますが、皆様にご提案をいただくなど、地権者の意向を基にまちづくりについて、今後も協議を続けていきます。

(質 問) 道はできたが商店ができないという、賑わいのないまちになってしまう可能性がある。駅前の線路沿いには市有地もある。下に店舗があって上は住むことができるなど、商店等が増える仕掛けが必要だと思うが、考えがあるのか。

(市の答え) 西口でも商店や業務機能が少しずつ建築されている状況です。東口についても、道路整備に合わせてどのようなまちにするのかというコンセプトを街のルールなどと合わせて、検討していきたいと思います。

(質 問) 「まちづくり」と言いながら、「道づくり」の話しかしていないと相当指摘してきた。「まちづくり」を考えるためにコンサルタントに参加してもらっている。積極的に案を出してもらったらどうだ。

(コンサル) 東口の将来について、アクセス路が整備されることで交通の利便性が高まり沿道の土地利用が変化してくると思います。

西口側では、駅前広場、都市計画道路の整備に併せて、市と一緒に再開発等の共同事業を提案しています。東口についても、昨年度の検討会で参考資料として、アクセス路拡幅後の沿道イメージを描いています。

アクセス路の線形が決まったことを受けて、これから本格的なまちづくりが始まると思っています。

(質 問) 東口のまちづくりの方向性に、町田市的位置付けとして、生活中心地として市民の日常生活を支えると書かれているが、ここに住む方たちの生活圏は橋本で、日常の買い物は、橋本に行く。リニア中央新幹線も来るのだから、周りの動向に対応したまちにしないといけないと思う。橋本と行き来ができなくなると、どうすればいいのか。

(質 問) 将来の可能性を積極的に展開してもらった方が良いと思う。ここで買い物ができ、多少なりとも飲食店があるぐらいでなければ、橋本とあまりにも差がありすぎる。過疎街でなく、まちをしっかりと機能させてほしいという思いである。

生活中心地としての東口を考えると、困ったときに役立つ緊急避難路を作ってほしい。また、商業を誘致してほしい。例えば、静岡などの空き家対策では小さな民業を誘致するなどしている。

今は、まちづくりには速度感が必要だと思う。東口のためにさらに良い街を、そして、いい商業エリアにして欲しい。それがまちづくりだと思う。郵便局は、ぜひ東口の一等地に誘致してもらいたい。

(質 問) 地権者の考えを聞いてという話はもっともだと思うが、それができるのであれば、もっと進んでいると思う。行政から、都市間競争の中でこの相原をどのようなまちにするかという提案をしてもらいつつ進めないと、まとまらないと思う。

(市の答え) 相原東口は、今後、周りの住宅団地等で空き家が増え、高齢化も進んでいくと予想されています。従って、駅前に住戸をいかに増やしていくかということも、まちづくりの大きな柱の一つと考えます。

今は道路沿いに戸建住宅が張り付いているような状態ですが、アクセス路の整備にあわせて、生活中心地にふさわしい建物が建てられる下地づくりをしたいと考えています。

また、地権者の皆様が何をしたいかも重要なポイントになると思います。

今後も地権者の皆様のご意見をいただきながら、この街をどうするかについて議論させていただきたいと考えています。

(4) 閉 会

時間になりましたので、本日はこれで終了させていただきます。お忙しい中、ありがとうございました。

以上